

秋サケ資源調査

山中 崇裕

調査目的

青森県太平洋沿岸に來遊する秋サケ資源の來遊経路及び漁場特性を把握し、今後の秋サケ資源の適正な管理及び漁業調整施策の資料とする。

調査の内容と方法

- ・ 調査場所：図-1に示す調査海域内
- ・ 調査期間：10月～12月
- ・ 調査船：東通村尻屋から階上町の太平洋沿岸漁協所属の漁船（10トン未満）
- ・ 調査方法：はえなわ漁法（1操業当たり15鉢以内、1鉢：100m以内で約35本の針）によって漁獲されたサケの一部を標識放流。（アオスイ文字入り黄色ディスクタグ）

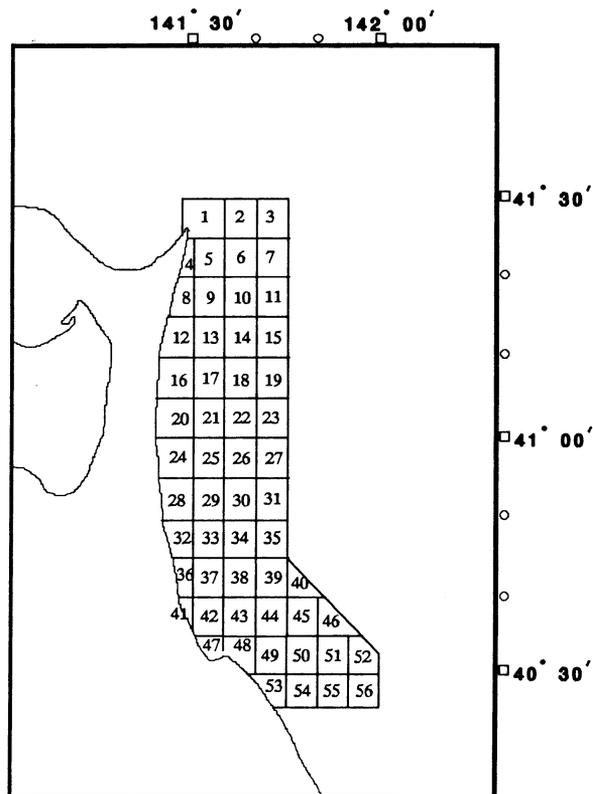


図-1 秋サケ延縄試験操業海域図

調査結果

平成8年ののはえなわ調査委託船の調査概要を表-1に示した。実際の操業隻数は委託隻数84隻に対し28隻であった。延べ出漁回数（隻数）は174回、総使用鉢数2,098鉢、総漁獲尾数15,260尾、水揚げ金額は4,215,845円であった。

委託隻数は昨年より減少し、操業隻数は昨年と同じであったが漁獲尾数、水揚げ金額ともに昨年を大幅に上回った。

表-1 平成7年度秋サケ延縄試験操業結果

漁業協同組合名	委託隻数	出漁隻数	延出漁日数	延使用鉢数	漁獲尾数			放流尾数	水揚げ金額（千円）		
					ギン毛	ブナ	計		ギン毛	ブナ	計
階上	9	1	8	86	798	102	900	10	0	0	0
八戸市南浜	13	12	76	788	4,214	1,732	5,946	94	1,805	144	1,949
八戸鮫浦	16	11	78	1,126	6,976	1,328	8,304	92	2,215	130	2,345
百石町	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三沢市	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
六ヶ所村	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
六ヶ所村海水泊	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22	3	11	113	290	40	330	15	0	0	0
白糠	15	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	84	28	174	2,113	12,278	3,202	15,480	211	4,020	274	4,294

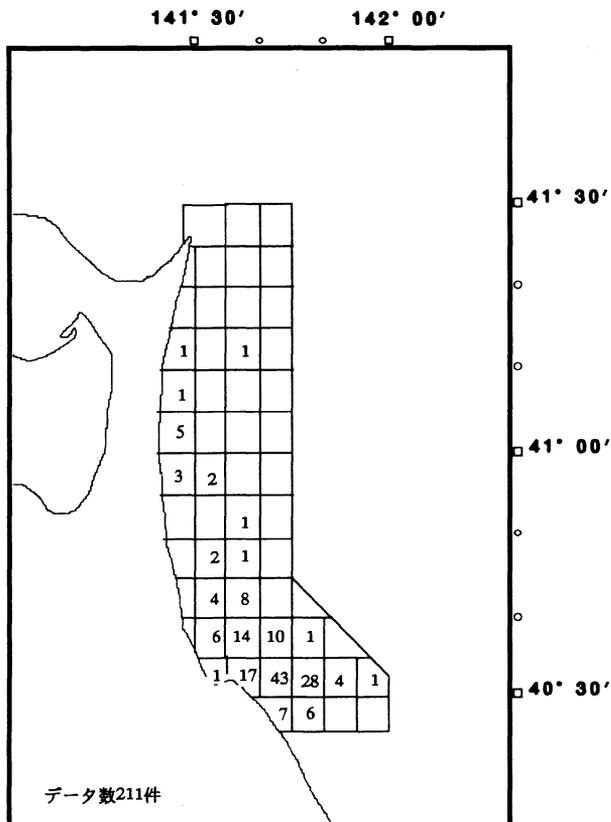


図-2 海域別操業回数（全期間）

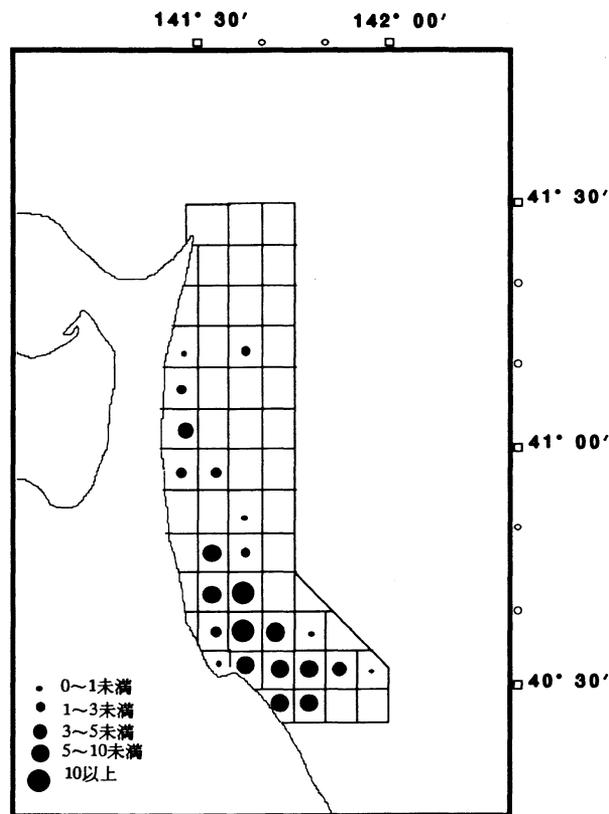


図-3 海域別CPUE（1鉢当たり漁獲尾数）

1) 海域別操業回数

調査海域毎の操業回数を図-2に示した。

平成8年の延べ操業回数は174回で、三沢以北の北部海域で29回、八戸～階上沖の南部海域で138回であった。

このうち、有漁割合（全操業回数に占める漁獲のあった回数の割合）は北部海域が89.7%（26/29）、南部海域が90.6%（125/138）で、北部海域、南部海域ともに高かった。

2) 分布密度

図-3に海域別CPUE（1鉢当たりの漁獲尾数）を示した。CPUEの高かった海域は、階上沖から三沢沖までの広い海域で見られ、多数の魚群が来遊したことがうかがえた。

3) 移動回遊

図-4に海域毎の標識放流尾数を、図-5と表-2に再捕状況を示した。

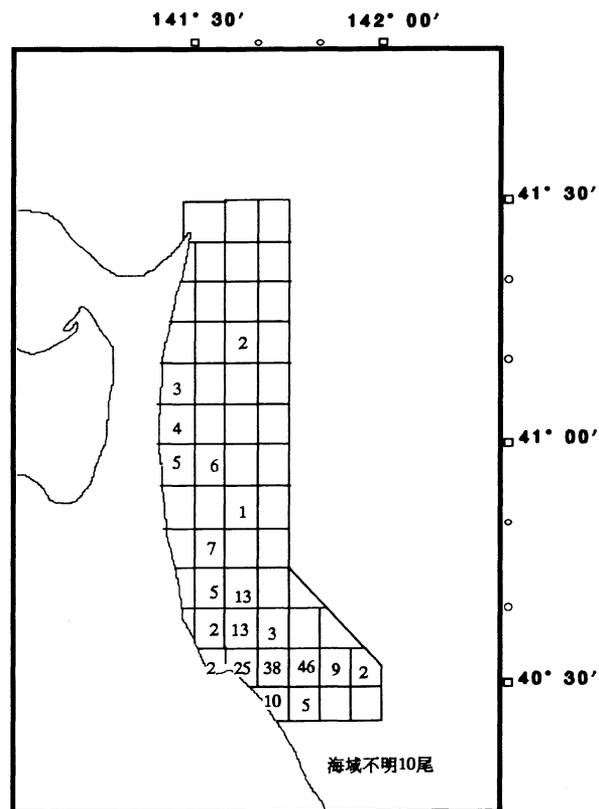


図-4 海域別放流尾数

表-2 標識放流結果

標識番号	放流内容		再捕内容			
	年月日	海区	再捕年月日	再捕県	再捕の場所	方法
アオスイ	年月日	海区	再捕年月日	再捕県	再捕の場所	方法
43	不明	不明	96.12.14	岩手	久慈市宇部町小袖	定置
141	96.11.23	50	不明	岩手	久慈市小袖えびす漁場	定置
155	96.11.25	49	96.12.3	岩手	普代村黒崎沖北東6マイル	延縄
286	96.12.11	33	96.12.14	岩手	久慈市宇部町小袖	定置
311	96.12.10	44	96.12.14	岩手	久慈市宇部町小袖	定置
161	96.12.25	不明	96.11.25	青森	不明	定置
202	96.11.24	49	96.11.26	青森	百石海域	不明
16	不明	不明	96.12.12	岩手	黒崎(普代)	定置
20	不明	不明	96.12.13	岩手	弁天	定置
91	96.12.10	50	96.12.16	岩手	サンマ網	定置
93	96.12.10	50	96.12.12	岩手	有家川	やな
100	96.12.10	50	96.12.16	岩手	沼の鼻	定置
145	96.11.23	50	96.12.27	岩手	不明	不明
246	96.11.27	38	96.12.19	岩手	岩手県田老川	やな
288	96.12.11	33	96.12.26	岩手	大槌川	やな
304	96.11.8	50	96.11.26	岩手	岩手県野田湾	磯建網
304	96.11.21	50	96.11.26	岩手	野田村玉川	磯建網
342	96.12.21	48	96.11.27	岩手	岩手県山田湾口	定置網
345	96.11.26	不明	96.12.9	岩手	吉浜川	やな
350	96.11.26	不明	96.12.4	岩手	白崎(釜石)	定置
231	96.11.20	48	96.11.27	青森	新井田川	やな
234	96.11.20	48	96.12.5	青森	奥入瀬川	やな

放流尾数は全期間を通じて 211尾の放流があり、22尾の再捕報告があった。

再捕された尾数は22尾で昭和61年の調査開始以来最も多かった。特に岩手県での再捕数が多くなっており、県内での再捕数は例年とあまり変わらなかった。

考 察

平成8年漁期は、親潮第1分枝が三陸沿岸から下北半島にかけて広く接岸したため(図6)、水温環境が秋サケの来遊条件として良く、八戸沖を中心に広く漁場の形成がみられ、はえなわの操業に適している状況と考えられた。

このため、操業回数、漁獲尾数は昨年より大幅に増加したほか、放流尾数も 211尾となった。

本県太平洋沖合でははえなわによって漁獲された秋サケ資源は、過去の標識放流の再捕状況から北部海域が青森県産資源主体、南部海域が岩手県産資源と青

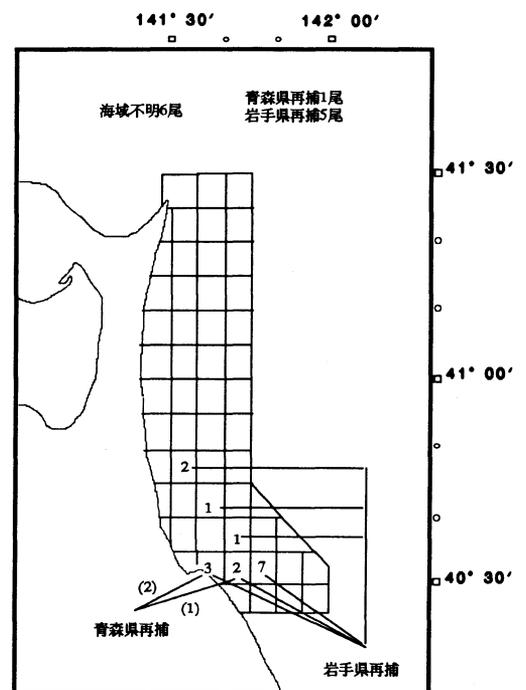


図-5 再捕状況と放流位置

森県産資源の混成群と考えられたが、その量的関係の推定については、海況との関連で年変動が激しいと予想されることから今後さらに資料を収集し、検討する必要がある。

また、表-3に昭和61年から太平洋において実施してきた秋さけはえなわ試験操業の実施状況一覧表を示した。

開始当初7隻で始まった試験操業は、平成8年には委託隻数84隻と昨年より減少したが、実操業隻数は昨年と同じ28隻であった。平均漁獲尾数（漁獲尾数／延出漁隻数）で比較すると平成8年は87.7尾と過去最高を記録し（昨年比6.3倍）、一鉢あたり漁獲尾数（漁獲尾数／延使用鉢数）でも7.3尾と過去最高であり、漁獲効率が高かったことがうかがわれた。

近年の秋サケは供給過剰による市況の低迷により、本漁業の経済性は低下してきている。しかし、秋サケ延縄漁法は比較的経済性の高いギン毛のサケが漁獲の主体であることや、スルメイカの漁閑期に沿岸小型船によって試験操業されている実態を考慮すると、今後も継続的に調査を行っていく必要があると考えられる。

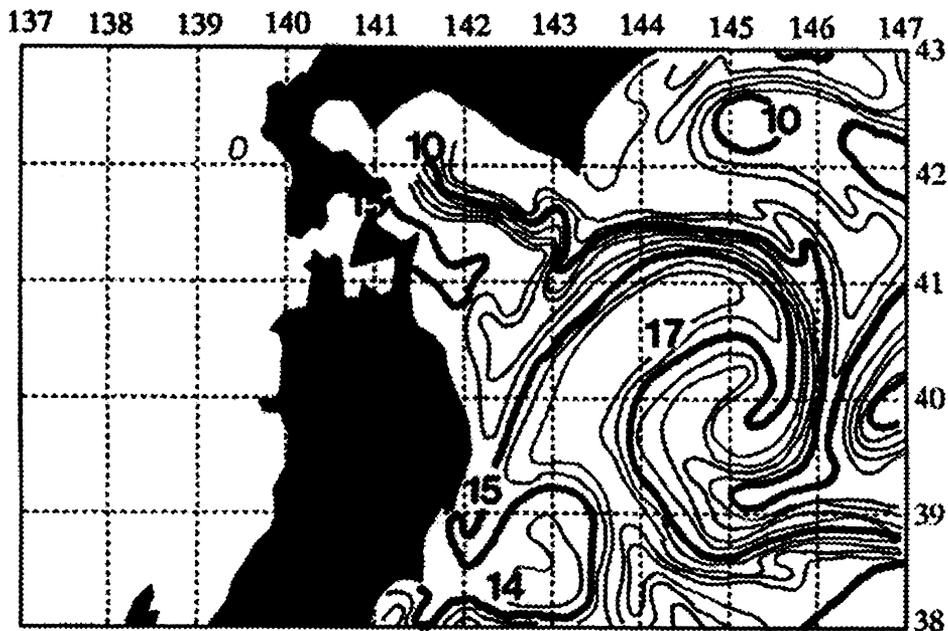


図-6 海況速報68号（11月25日発行（社）漁業情報サービスセンター）

表-3 年次別実施状況一覧表

年次	昭和61	昭和62	昭和63	平成1	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	計
委託隻数	7	18	38	56	64	64	101	86	94	95	86	709
出漁隻数	7	13	30	37	40	26	39	41	46	28	28	335
延出漁隻数	81	99	411	420	172	129	477	336	252	78	174	2,629
延使用鉢数	1,573	1,404	5,558	5,053	2,881	1,291	5,078	3,555	2,857	684	2,098	32,032
漁獲尾数	4,301	1,729	26,565	26,154	4,015	6,225	14,843	16,252	17,051	1,085	15,260	133,480
放流尾数	52	15	255	343	138	169	235	190	225	44	211	1,877
再捕尾数	2	5	5	6	6	12	1	2	6	1	22	68
再捕率	3.8	33.3	2.0	1.7	4.3	7.1	0.4	1.1	2.7	2.3	10.4	69
県内再捕	1	1	1	5	1	6	1	0	4	1	4	25
内河川	0	0	1	3	0	2	0	0	0	0	2	8
県外再捕	1	4	4	1	5	6	0	2	2	0	18	43
内河川	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	5